



おいしいラーメン屋の主人の愛人の話

清田区支部 伊 東 修 一

“おいしいラーメン屋の主人の愛人の話”というのがある。さっき私が作ったのだが。

“その日私はおいしいラーメン屋があると聞き出かけて行った。かなり並んでやっと入店した。しかしその店の主人には外に愛人がいる事が分かったので、潔癖な私は何も食べないで帰ってきた。”

せっかく長時間待ち食べないで帰る人はあまりいないだろう。これはおかしい。主人に愛人がいてもいなくてもラーメンは食べたい。食べない事はありえないと考える方が多いだろう。

ではこちらはどうか。

“TPPに反対の政治家がいて応援していた。やっと議員は閣僚となった。しかし彼には愛人がいる事が分かったので、私はその議員を応援するのをやめた。”

これを是とする方は意外と多いと思う。男女関係に厳しい方は特にそうだろう。

何故だろう？ただラーメンが政治に変わっただけなのに。

ラーメン屋にはおいしいラーメンしか求めないのに、何ゆえ政治家には政治以外の事も求めるのか。

政治とラーメンは違うのだからそれは当然だ、と考える方に聞きたい。

本当にそれでいいのか、と。実はその考え方は現在の社会崩壊に力を貸しているのではないかと。

先日も与党閣僚が、10年以上前の女性問題で議員を辞職した。彼は強力なTPP反対論者であった。

彼の女性問題の報道を聞いた我々は、“女性問題を起こしたのだから辞任もやむなし”と何

となく思い込んでいないか。

しかしその思考回路はだめである。敵に手を貸している。

これからはこう考えるべきだ。

“我々はTPP反対を評価して彼を選んだのだから、女性問題を起こしてもそのまま政治を続けられればいい。その他の問題は別件で解決すればよい。女性問題をしつこく報道するマスコミはおかしいのではないか”と。

私は、政治家は良い政治をしていただければそれだけで十分と思う。

何故なら、世間で言われている倫理に反した問題などいくらでも捏造できるからである。

女性や金など別件の問題で有能な議員が辞職したり経済学者が職を追われたり最近こんな出来事が多すぎないか。

そして我々はそんな事に無言の了解をしていないか？

司法や警察や大マスコミを動かせる反国民勢力は、いつも同じ手法を使っている。

まず女性や金など些細な事を見つけ、騒ぎ始める。→ それを子飼いのマスコミが、一斉に一日中報道しまくる → 議員が辞職、経済学者が失脚するまでそれを継続する

この手法で、我々はどれだけたくさんの憂国の士を失っているのだろうか。

政治と女性問題を混同する事を疑問に思わない我々のナイーブさ（馬鹿さ）につけこまれてるのである。

もうこれからは女性問題や些細な金の問題

で、議員や学者の失脚に手を貸すのはやめよう。

そしてそんな問題ばかりを（本質の報道をあまりしないのに）一日中流しまくるマスコミは、明らかに国民の敵であると考えよう。彼らが何を目的としているかを見張る事が必要だ。

今後そのような報道しかしないならば、大テレビや新聞は、見ない、聞かない、買わないようにしなければいけない。

そして不当に貶められた政治家や経済学者へは、具体的に支援したい。

地元有権者ならば、“政策さえ変わらなければあなたへの支持は継続する”事を伝えれば政治家は勇気百倍だ。

伊丹万作氏は、昭和21年の著作「戦争責任者の問題」(青空文庫)の中でこう語っている。

“今度の戦争でだまされていたという。皆がみな口を揃えてだまされたという。”

“私は日本国民の将来に対して暗澹たる不安を感じざるを得ない。だまされたと言って平気でいられる国民なら、おそらく今後も何度でもだまされるだろう。

いや、現在もすでに別のうそによって、だまされ始めているにちがいないのである。”

現在も非常に似た状況だ。

ラーメン屋に美味しいラーメンだけを求めるように、政治家には良い政策だけを求める事を徹底しよう。

それは医師会にとっていい社会を作る上でも、きっと効果がありますよ。

(美しが丘いとう内科)